

番号	頁	行	ご意見	対応
1	8	5	令和2年度（2020年度）→令和2年（2020年） 調査項目→集計項目	ご指摘のとおり修正します。
2	8	6	平成27年度（2015年度）→平成27年（2015年）	ご指摘のとおり修正します。
3	8	図5	滋賀県総合政策部統計課資料／（2015年農林業センサスから） 耕作放棄地面積の集計は平成27年度まで実施されている。 ↓ 滋賀県総合企画部統計課資料／（農林業センサス結果報告書から） 耕作放棄地面積の集計は平成27年まで実施されている。	ご指摘のとおり修正します。
4	19	15～16	「タケノコ等の林産物を主体とする林業被害も発生している」としているが、まず滋賀県の竹林の規模の大きなものは、河畔林のマダケ林である。そのマダケ林は県内の大川や山麓で繁茂しすぎて、そうした竹林の整備に苦慮している。例えば、愛知川の両岸においては、17年ほど前から、彦根市側と能登川町側において、ボランティアによる河畔林の枯れ竹の整備活動が行なわれている。この大規模な河畔林の竹林においてもイノシシの生息は確認されず、哺乳動物としてはキツネ、タヌキ、モグラの3種が確認されるだけである。 したがって、県内におけるタケノコの林産物の被害は何処なのか、また竹林が増えすぎる被害は聞くが、タケノコの被害は聞いたことがない。	タケノコ被害については、県内においても生産されており、また、イノシシの食害が発生しているとの情報も入ってきていますので、原案のとおりとします。
5	25	10	野生イノシシへの「経口ワクチンの散布」であるが、とても効果のある対策とは考えにくい。この対策を広げる前に、その効果について抗体保有率等に関して検証をすべきである。検証を行なった後に、効果が確認できたら、本格的な対策として実施すべきである。本当に、「経口ワクチンの散布」の効果があれば、この度の近江八幡の多量なブタ感染などが、生じることはなかったのではないかとさえ思える。	経口ワクチンについては捕獲された野生イノシシの抗体・抗原検査により、感染動向および抗体取得状況の推移を把握しているところであり、調査結果からはワクチン散布の効果も認められています。 飼養豚への感染については、野生イノシシのほか、人や物資等を介した感染等の可能性もあることから、近江八幡市養豚農場での豚熱発生と野生イノシシの因果関係は不明です。 以上のことから原案のままとします。

番号	頁	行	ご意見	対応
6	25	11～14	<p>(5) 豚熱（CSF）の感染状況および対策状況 2) 野生イノシシへの経口ワクチンの散布</p> <p>(現行) ・令和元年（2019年）9月から、感染確認区域およびその周辺の市町において散布 ↓ (修正案) ・令和元年（2019年）9月から、国のワクチンベルト構想に基づき散布を開始。 ・令和2年5月からは、感染確認区域およびその周辺の7市町で散布を実施中。</p> <p>【理由】開始当時は、米原市や長浜市などの感染確認区域ではなくベルトの考え方にに基づき散布をしていたため、案のような書き方はいかがでしょうか。</p>	<p>ご指摘のとおり修正します。 なお、「令和2年5月からは、感染確認区域およびその周辺の7市町で散布を実施中」につきましては、散布地域の一部追加等の変化もあることから、「令和2年5月からは、感染確認区域およびその周辺の市町で散布」とします。</p>
7	25	21	<p>4) 養豚農場における防疫体制の強化 ・養豚農場に対し、飼養衛生管理基準の順守の徹底を指導 ↓ 養豚農場に対し、飼養衛生管理基準の遵守の徹底を指導</p> <p>【理由】家畜伝染病予防法および農水省では「遵守」の表記が使われているため。</p>	<p>ご指摘のとおり修正します。</p>

番号	貢	行	ご意見	対応
			<p>環境林の定義について、まず「放置人工林を、多様な生態系の形成」の意味が不明。放置されているスギ・ヒノキ人工林は、間違いなく植生遷移にしたがったスギ・ヒノキ人工林としての完全な生態系を形成している。つまり、人工林であつても、土壌や地形・地質などの無機的环境とスギ・ヒノキの高木やその下層の亜高木、低木、草本などの生産者、そうした植物に依存する昆虫類や鳥類などの動物、さらに分解者としての土壌生物などの生態系の構成要素は、落葉広葉樹などの自然林とは質的に異なるが、人工林の生態系としての機能的側面の役割を果たしており、放置人工林は完全な「生態系」を形成していると言える。</p> <p>したがって、このスギ・ヒノキ人工林に対して、多様な生態系の形成の整備を行なうとは、生態系の概念が理解されていない環境林の定義である。</p>	<p>ご指摘を踏まえ、琵琶湖森林づくり基本計画とイノシシの生息地管理の考え方との整合を図り、記載の内容を下記のとおり改めます。</p> <p>（修正前） 人とイノシシの棲み分けを図っていくため、イノシシを含めた様々な野生鳥獣が生息できるよう生物多様性に配慮した森林管理を行っていくことが重要であることから、森林については次のような整備を行うこととする。 人工林については、環境に配慮しつつ木材資源の循環利用を目指す森林と、多面的機能の持続的発揮を目指す森林に区分して整備を行っている。特に手入れが進まない人工林については、環境林※としての整備も行うこととする。</p>

番号	頁	行	ご意見	対応
8	30	4～16	<p>また、スギ・ヒノキの放置人工林の公益的機能とはどのようなことなのか不明である。さらに「高度にかつ持続的に発揮する森林」についても、意味不明。そして、「そうした森林に誘導することを目的に整備」としているが、このスギ・ヒノキ人工林の生態系の生態系の構造的側面と機能的側面に関して、「多様な生態系の形成」と「高度にかつ持続的に発揮する森林に誘導」を、どのような整備手法を行なうのか明らかにすべきである。</p> <p>もし、その整備手法が間伐であるならば、人工林の生態系として構造的側面も機能的側面も正常な状態のところ、生産者である植物の高木層に影響を及ぼすことになり、良否や大小の問題は別にして、現状の分解者や動物の生態系の構造的側面と機能的側面に影響が及ぶのは確実である。</p> <p>例えば、この人工林の高木層のスギには希少植物のカヤランなどが着生していたり、鬱閉した林床には希少種の陰地性のエビネなどが多数生育していたりするが、これらの希少が消滅してしまうことにもなる。一方、間伐によって林床が明るくなることによって、これまでの生産者である植物相に陽地性の異質な植物が侵入することになるし、希少種の消滅などとともに、生態系の構造的側面と機能的側面の正常な状態に逆効果をもたらすようなことになるのは明白である。こうした整備が、環境林としての整備活動ということになるが、とても生態系の概念を理解した環境林や整備活動の定義とはいえない。</p>	<p>天然林については生物多様性の保全に配慮した森林づくりとして、松くい虫被害林や放置された里山林を中心に、地域の特性に応じた整備を行う。</p> <p>（修正後）</p> <p>人とイノシシの棲み分けによる被害軽減を図っていくため、イノシシを含めた様々な野生鳥獣が生息できるよう生物多様性に配慮した森林管理を行っていくことが重要である。森林については琵琶湖森林づくり基本計画に基づき次のような整備を行うこととする。</p> <p>琵琶湖の水を育む水源涵養や流域治水としての多面的機能の持続的な発揮を図るため、自然のサイクルで維持される森林としての「環境林」と資源の循環利用を促進する森林としての「循環林」を組み合わせた森林づくりを行うこととする。</p> <p>環境林のうち、崩れやすい土質、人家などの保全対象に近いなど、災害リスクが高い人工林および天然林では、水源涵養等の公益的機能を重視し、針広混交林や複層林等へ誘導することとする。</p> <p>針広混交林等はイノシシにとっても休息・避難場所となる藪や茂みおよび食料を提供する環境の一つになり得ることが期待される。</p>
9	31	3	<p>目標達成のために推進すべき事項として、当市では特に行政区域界付近の捕獲等が十分に行えず獣害対策に苦慮しているため、県下全域を通して滞りなく獣害対策が行えるような体制の構築を行っていただきたい。また、同様に国有林内に関しても捕獲等事業が行えないため、改善策を講じていただきたい。</p>	<p>従来からご要望に回答しておりますとおり、被害状況や苦慮されている点を具体的にお伝えください。</p> <p>また、国有林内での捕獲等事業は手続き（入林届、協定等）を行えば実施できますので、ご検討ください。</p> <p>検討すべき事項がある場合には貴市含め関係者と検討してまいります。</p> <p>以上のことから原案のままとします。</p>

番号	頁	行	ご意見	対応
10	32	15	「河川・水路等の損壊」としているが、水路はともかく、「河川の損壊」であるが、どの程度の河川で、どのような損壊であるのか、またイノシシによるものであるという確実な根拠などを明らかにしたうえで、「河川」というような記載をすべきである。	一部の河川ではイノシシが出没し、穴を掘るなどの状況が発生しているが、詳細な被害状況の把握までには至っていないことから、「河川・水路等の損壊」を「水路等の損壊」に修正します。
11	35	32～33	文化財担当部局への情報提供→文化財担当部局へのすみやかな情報提供 ※令和2年12月4日付け2文財ニ第187号文化庁文化財第二課長通知には「すみやかな情報提供に努めること。」と記載されている。	ご指摘のとおり修正します。